

利用者からの問い合わせより

民俗部門

竜頭(りゅうのかしら)はどのように使われたの？

答えは

かつて、県内各地では十五夜の日に綱引きをする光景がみられ、日南市の油津でも盛大に行われました。綱引きに使われる綱はぐるぐる巻きにされ、竜頭はその上に置かれていました。綱を竜の体に見立てていたのですね。綱を竜に見立てることは、神楽でもみられます。例えば西都市の銀鏡神楽では綱神楽があります。綱引きと神楽が、意外な点で結び付いていたのです。残念ながら、現在では油津での綱引きは行われていないということです。(小山)



声
Voice

展示解説員の声

神宮の森では、梅雨が明けると蝉が一緒に鳴き始め、本格的な夏到来となります。

自然史展示室入り口を進んだところに、宮崎の自然を特徴づける「照葉樹林ジオラマ」が広がっています。ここでは、土の中の生き物をはじめ野生の動植物が展示されていますが、毎回新しい発見と驚きがあります。「宮崎の宝」でもある豊かな照葉樹の森を身近に感じると共に、ご来場の皆様に森の貴重さを解説していきたいと思えます。

次に、「宮崎の大地(地質部門)へ進んでいくと、新設「地質情報コーナー」が設けられています。現在は、

県内最大標本の五ヶ瀬町産アンモナイトをご覧ください。今後、何が展示されるか楽しみなコーナーです。展示室でのご質問などございましたらお気軽に解説員へお声かけ下さい。皆様のご来館を心よりお待ちしております。



(展示解説員 持永)

お知らせ

「恐竜ワールド2009」関連イベント情報

- ① コンピューター3D恐竜めりえ**
 コンピューターの画面上でステゴサウルスに色を塗ると、立体になって表示されます。世界で1体しかない恐竜をつくってみませんか？
- ② アンモナイトの拓本をつくらう**
 恐竜の時代・中生代の海に生きた「アンモナイト」の拓本(たくほん)をつくりまわります。アンモナイトのレプリカに紙をのせてインクでこすり出します。
- ③ 恐竜レプリカ発掘体験**
 ゴビ砂漠から発見された羽毛恐竜「インゲニア」の精巧なレプリカを砂の中から見つけてください。まるで、ゴビ砂漠で本当の発掘をしている気分になりますよ。いずれも毎日実施で申込み不要、体験無料。但し、観覧券が必要。

常設展はいつも無料です。

夏季の休館日のお知らせ

7月の休館日は、7/7(火)と7/14(火)です。8月は無休です。

講座「採集作品の名前を調べる会」のご案内

夏休みに採集した昆虫・植物・貝・岩石・化石などの名前を調べます。事前の申込みは不要です。

日時：8月23日(日)10:00~15:00
 対象：小・中・高・一般
 場所：本館情報室 定員：なし

恐竜ワールド2009

THE DINOSAUR WORLD 2009

ここまでわかった恐竜のすがた

2009年7月17日(金)~9月6日(日)

時間：9:00~17:00(入場は16:30まで)
 7月17日(金)は11:00より
 8月28日(金)~8月30日(日)は21:00まで(入場は20:30まで)
 休館：特別展開催中の7・8月は無休。9月1日(火)休館
 観覧料 大人1000(800)円、小中高生500(300)円
 ()は20名以上の団体と前売り:前売りは7月16日(木)まで
 主催：宮崎県総合博物館 宮崎日日新聞社 MRT宮崎放送
 問合せ：県総合博物館 宮崎市神宮2-4-4 TEL 0985(24)2071

コンピューター3D恐竜めりえ
 コンピューターでめりえをすると恐竜が立体になってあらわれる！

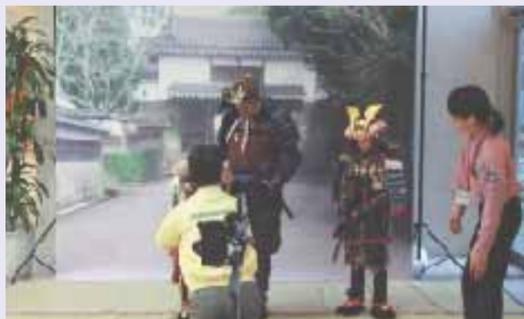
今回の展示会ではアジアのティラノサウルスと呼ばれるタルボサウルス全身骨格(国立科学博物館所蔵)を最新の恐竜研究の成果にもとづいて大改造し、「まちぶせスタイル」での復元を世界初公開します。12体を超える全身復元骨格を含む約50種100点を超える資料は、できるだけ多くの分類群から選定するように努めており、会場を1周すると、実物大の立体恐竜図鑑の中を歩くような展示構成になっています。

近年、羽毛をもった恐竜の相次ぐ発見から鳥類と恐竜の境界線は曖昧になっており、すべての恐竜が絶滅したわけではなく鳥類として生き残っているという考え方が支持されています。最新研究成果にもとづいて科学的に考察された2009年バージョンの羽毛恐竜イラストや恐竜から鳥への進化の展示は新鮮な驚きをもって見ていただける内容です。

歴史部門

宮崎の歴史情報

よろい・かぶと着用体験!



今年で7回目となる「よろい・かぶと着用体験!」を、5月5日の「こどもの日」に実施しました。「こどもの日」は、もともと旧暦5月5日に行われていた「端午の節句」あるいは「菖蒲の節句」と呼ばれる年中行事の1つだったものが、1948(昭和23)年に公布・施行された「国民の祝日に関する法律(祝日法)」によって祝日として制定されたものです。

古来より朝廷では「端午の節句」を「端午の節会」と呼んで、宮廷内にある武徳殿に出御した天皇に菖蒲や艾(蓬)を献上し、天皇からは菖蒲曼をつけた群臣に薬玉が下賜され、騎射(のちの流鏑馬)宴会が行われていました。中世以降、菖蒲が「武」をたつとぶ「尚武」や勝ち負けの「勝負」に通じること、また葉の形状が剣・刀に似ていることから武家の行事となり、やがて男子の節句となって定着していくことになりました。

現在では、男女の別なく子どもたちの健やかな成長を願う行事として定着し、家族の人数分の鯉のぼりを立てる家もあるようです。今年も家族総出の参加も含め、事前に応募された151名と兜のみの着用体験者31名の合計182名の参加を得て講座を実施することができました。

来年度も改善を加えながら同講座を続けていきたいと思ひます。(中竹)

考古部門

常設展示室

縄文人のキッチン事情—集石遺構の復元ジオラマ—



考古展示室の中に入るとすぐ縄文時代のコーナーがあります。そこには赤く焼けたこぶし大のたくさんの石が詰まった穴(集石遺構)の前で縄文人が何かしている原寸大の模型がおかれています。今からおよそ9000年前の縄文時代早期、気候の温暖化によって、縄文人を取り巻く自然環境が豊かになり、食生活も多彩になりました。この模型は、当時南九州で盛んにおこなわれた石蒸し料理の様子を再現したものです。地面を直径1mほどの円形に浅く掘りくぼめ、底に平らな石を敷いて火をたき、さらに焼けた石を放りこんで獣や鳥の肉、いも類を蒸し焼きにします。他にも薫製をつくったと思われる施設(連結土壇)も多く発見されており、土器を使つての煮炊きなど、縄文時代のさまざまな調理法や保存法を知ることができます。(永友)

動物部門

宮崎の自然情報

キオビエダシャク

キオビエダシャクは、その名のとおり黒い体に「黄帯(キオビ)」を持つ美しいガです(写真1)。

幼虫はオレンジの模様のあるシャクトリムシで、5cmほどに成長します(写真2)。日本では奄美大島以南でしか生息できないガと考えられていましたが、2000年夏に鹿児島県開聞町で生息が確認されました。それ以来、南薩地方で毎年発生し、蛹で越冬するようになり、現在では鹿児島県全域と宮崎県南部まで生息範囲を拡大しています。幼虫はイヌマキの葉を食害し、激しい場合は枯死させることもあります。キオビエダシャクの大発生は、過去(昭和中期)に1度起こりましたが、その後姿を消しています。今後の動向が気になるところです。(山田)



写真1

写真2

植物部門

新収蔵資料紹介

タカクマムラサキ

一昨年の秋、植物担当の二人は日南市伊比井川を調査中に、道ばたでこれまでに見たこともない植物を見つけました。花の付き方からムラサキシキブの仲間であることはすぐに分かりました。しかし、葉は大きくて細長く、茎や葉に腺点が密生し、とても粘ります。県内では初めての植物です。別の場所にも生えていたので自生であることは間違いありません。調べた結果、タカクマムラサキという植物でした。鹿児島県の高隈山にちなんで名付けられた植物です。しかし、高隈山では現状不明で、日本ではっきり自生が確認されているのは種子島の14本だけです。伊比井川ではその後の調査で25本を確認しています。宮崎の自然の豊かさを改めて実感しました。

(斉藤)

